

SEED (シード)

Vol.008
2023.01月

令和4年度「駒大生社会連携プロジェクト」もラストスパート！各プロジェクト、活動の成果のまとめに入っています。今号では、5つのプロジェクトの活動内容のレポートをお届けします。

〔産官学連携部門〕

社会連携ゼミ交流会（経済学部：大前智文先生）

2022年12月17日（土）に駒沢キャンパスにて「社会連携ゼミ交流会」を実施しました。本年度は経済学部、経営学部から7ゼミ（明石ゼミ・大前ゼミ・長山ゼミ・松田ゼミ・松本ゼミ・吉田健太郎ゼミ・鹿嶋ゼミ）が参加し、学生による社会連携活動の報告と交流・情報交換ワークショップを行いました。また新たな試みとして、各ゼミの社会連携先の企業・団体の関係各位をお招きしご参加・ご講演いただきました。社会連携活動に関心や実績のあるゼミが一堂に会する機会となり、学内外での情報交換や連携・交流活動を前進させる場となりました。皆様のご参加・ご協力に感謝申し上げます。



〔社会連携センター：プロジェクト見学レポート〕

経済学部：大前 智文先生のプロジェクトの活動を見学しました。

産官学連携部門で採択された、経済学部の大前 智文先生のプロジェクトが、12月17日に行った「社会連携ゼミ交流会」を見学しました。

今回参加した7ゼミによる活動報告では、子育て支援、地域活性、食品ロス、ブラックバイトなど、私たちにとって身近なテーマについて多彩な相手先と連携しながら活動している様子がよくわかりました。またどのゼミも、資料や話し方を工夫されており「伝える」ということに力点が置かれた素晴らしいプレゼンばかりでした。

その後、各ゼミのブースで個別説明が行われ、学生同士が事例を報告しあい、質疑応答を行うなど、とても活発な交流の場でした。



外国人材の雇用による日本中小企業の「内なる国際化」の推進や「労働者不足問題の解消」を目指している私たちの班では、8月31日～11月17日にかけて、対面、オンライン両方を交えながら調査を行いました。

具体的には、日本で就労経験のある外国人材（特定技能もしくは技術人文国際ビザ）と、外国人材（上に同じ）を雇用する日本企業に対して、双方の潜在ニーズ、そしてそれに対する実態を把握する調査を行いました。調査では、双方の潜在ニーズが明らかになったのと同時に、事実発見として、情報の非対称性が外国人材の成長だけでなく、企業の成長にも悪影響を与えている状況が浮き彫りになりました。

その実態に対して、まさに私たちの連携先のような、外国人材と日本企業とを仲介する業者の存在が、双方の成長の実現を左右すると言えるため、今回明らかになった潜在ニーズを解決するサービス内容への改善に向けて活動していく予定です！



私たちの班は、伝統地場産業の持続的な成長と発展のため、京都の老舗菓子地場企業である石田老舗様と連携し、マレーシア市場に向けて、スイーツの新商品開発と販路開拓戦略の立案を行っています。今般、商品開発において試作と試食会を行いましたのでご報告します。

中華系マレー人30-40代女性をターゲットに、抹茶のシュークリームを開発し、計3回の試作・試食を行いました。STP分析をもとに、風味や食感、見た目、さらにマレーシアの高温多湿な気候にも配慮しながら、改善を繰り返していきました。

最終的に三つの商品が完成し、それぞれ、抹茶白玉リングシュー、抹茶モンブランバトンシュー（くるみ・ブルーベリー）になります。

これらを実際に、ターゲット層の9名に食べていただき、5段階評価でアンケートを行いました。

結果として、7割近くの方に満足していただくことができ、コロナ禍で調査に制限がかかりながらも、高い満足度を獲得することができました。

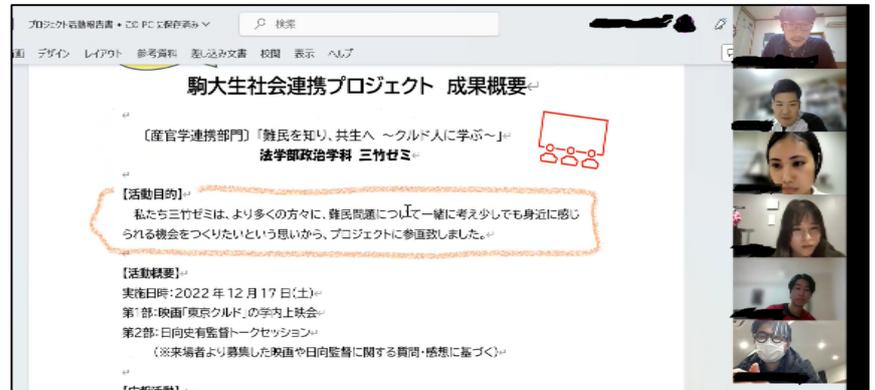


〔産官学連携部門〕

難民を知り、共生へ ～クルド人に学ぶ～（法学部：三竹直哉先生）

上映会が終了し、約1ヶ月が経ちました。私達は現在、2月18日に行われる活動報告会に向けて準備を進めています。その準備の一環で、アンケートを集計するという作業を行いました。アンケートには、来場者の方々が上映会についてどう思われたかが記載されています。今回、様々なご意見を頂戴しました。その中には上映会開催への感謝のお言葉もあり、拝見していて非常に嬉しい気持ちになりました。来場者の皆様におかれましては、多くのご意見をお寄せいただき、感謝申し上げます。

アンケートを拝見し、良かった点と改善点が見えてきました。良かった点は踏襲し、改善点は次の機会までに改善していきます。そして、報告会に向け、当日まで準備に尽力して参ります。



〔世田谷区部門〕

動画制作を通じた「せたがやの居場所」発信プロジェクト（経済学部：松本典子先生）

12月から1月にかけて、各グループで本格的に撮影のロケが始まりました。NHKサービスセンターの星野さんから学んだ撮影のポイントやアドバイスを意識しながら撮影し、また現場でも星野さんに指導・サポートをしていただき、無事に動画を撮り終えることができました。撮影が進んでいくにつれて、想像しているよりも、実際に現場に行ってみて気づくことがたくさんあり、得るところの多いロケになりました。

動画を撮ることだけではなく、取材交渉やインタビューでの振る舞いなど、今後必要なスキルも学ぶことができ、大変貴重な経験をすることができました。

今後は、最終の編集作業の段階に入り、各グループ2月中の動画レポート完成に向けて、進めていきます。



〔世田谷区部門〕

地域プロジェクトによる市民育ち一用賀と深沢における参加型調査研究（文学部：李妍焱先生）

私たちは1年間を通して、まず先行研究などを参照しながら理論的に理解を深めていきました。また、数々のインタビューやフィールドワークを行うことで、実践的な面からの理解も深めることができました。そしてこの2つを掛け合わせて研究を進め、1年間の集大成である研究論文が完成しました。



先日、インタビュー等で研究にご協力いただいた皆さんをオンラインで招待し、私たちがフィールドワークを行っている「ふかさわの台所」で研究成果を発表しました。この発表を通して、改めてこれまで行ってきた取り組みを振り返ることができました。また、理論と実践が繋がってさらに深い理解にたどり着くことの面白さも実感しました。発表を聞いてくださった皆さんからも、多くの称賛やさらなるアドバイスをいただくことができ、とても楽しくタメになる発表会になりました。



令和4年度 駒大生社会連携プロジェクト 活動報告会



日時 **2023年2月18日(土) 13:00~14:45**

開催方法 Zoomウェビナーによる配信

ウェビナーID : **867 4286 6697**

PW : **komaseed22**

詳細はこちら



※ 本報告会は、学生・教職員・その他、どなたでも無料で視聴できます。

報告プロジェクト

- 【 動画制作を通じた「せたがやの居場所」発信プロジェクト 】
- 【 P B L 型授業のモデル構築 – 世田谷発の起業家教育 – 】
- 【 地域プロジェクトによる市民育ち – 用賀と深沢における参加型調査研究 – 】
- 【 産学連携による新商品開発と新たな販路開拓の実践プロジェクト
～地場産業の新商品開発と中小企業の海外販路開拓の事例～ 】
- 【 社会連携ゼミ交流会 】
- 【 難民を知り、共生へ ～クルド人に学ぶ～ 】
- 【 新入生セミナー×現代応用経済学科ラボラトリ コラボ企画
「現応ラボ 社会連携・SDGs活動セミナー」・「現応ラボ 社会連携・SDGs交流会」 】

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

